



地域支援センターしせい



第3号

～平成27年度 相馬養護学校特別支援教育セミナーを終えて～

第1分科会 「発達障がいの理解～教育と医療の連携～」
福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室 特任教授 柗屋 二郎 氏

震災後、子どもたちをとりまく環境の激変から、いじめや不登校、引きこもりや暴力など問題行動が増加していること、問題や症状を呈する子ども達の中に、何らかの発達障がいを抱える子ども達が増えていることを具体的な調査資料を基にご講演いただきました。適切な支援をせずに、その子どもにとって問題となる特性を放置してしまうことが、成長してから重大な事件につながることもあるということをうかがって、改めて早期の段階から、教育と医療が連携して支援を継続していくことが大切なのだということを再確認しました。

第2分科会 「相馬地方の福祉の課題～卒業後の進路～」
サポートぴあ 代表理事 青田 由幸 氏



卒業後の進路として、学校では一般就労を目標にしがちだが、当事者の想いはどうなのか。真の自立を考えた際、自己選択できる支援や子育てをしてきたか。という問いかけに身が引き締まる思いがしました。障がいを医療モデルではなく社会モデルで捉え、社会が主体となって不利益を被らないようにしていくことが「合理的配慮」であるというお話に、今、自分の立場でできること、すべきことについて振り返り、日々の実践を見直すきっかけにすることができました。

第3分科会 「進路・就労支援～連携で大切にしたいこと～」
石神中学校 小幡 仁子 氏 本校高等部主事 後藤正憲 進路指導主事 菅原直子

石神中学校の小幡先生から特別支援学級の現状と課題について、続いて本校高等部学部主事から本校高等部の概要、県内各地から入学している生徒たちとそれに伴う進路先開拓などについて、進路指導主事から進路状況と進路実現に向けた取り組み、卒業後の課題などについて話題提供をいただきました。参加者からは、「本人・保護者の願いを正確に汲み取りながら進路実現していくことの難しさ」や「中学校段階での進路指導上の課題が高等学校卒業段階での課題に直結する」などの意見が上がりました。生徒たちが、地域社会でどう生活していくのか、そのために学校・福祉・地域での連携をより密にしていくことを再確認できました。



第4分科会 「効果的なICTの活用」
株式会社ユープラス 代表取締役 小野 裕次郎 氏

現在、普及が進んでいるタブレット端末の教育現場での効果・子どものニーズに応じた活用方法を具体的に講演いただき、実技研修も行いました。それぞれの対象者のニーズに応じた、多様なアプリや外部スイッチ等の使用など障がいの状況等に応じたICT環境の工夫について事例を基にした紹介があり、また実際に端末操作の実技ができました。対象者に応じて、文字を大きくする・読み上げるなど端末のいろいろな設定方法の実技指導もありました。全員が対象としている児童生徒たちの「かわり、意思表示、自分でできることの広がりをめざし、積極的にICTを活用していこう」という意識をもつことができました。



講演会「地域で共に学び、共に生きる～特別支援学級の実践から～」
郡山女子大学短期大学部幼児教育科 准教授 小林 徹 氏



はじめに文部科学省からの新しい情報提供ということで、特別支援の対象の児童・生徒数の変化などについてお話いただきました。

先生は具体的な実践の中の失敗事例などもお話くださいましたが、ただの失敗では終わらせず必ず生徒の気持ちを汲み取って、その後の指導に活かされたようです。先生は特に「宿泊学習」や「劇づくり」の行事を通して、生徒たちの自信を高められるような取り組みをされてきました。

そして、交流及び共同学習に関してはインクルーシブ社会に向かうための一つのステップであるとの考えを話されました。豊かな人間性を育むための交流と、教科等のねらいを達成するための交流および共同学習は、どちらか一方だけ行うことはせずセットで考えることが大切であること、そのために、両校の教育課程に位置づけられることや評価も行うことが大切であると教えていただきました。